

- おおい町

「ふくい暮らし」を楽しんでいる、先輩たちの声です

友人の家族も自分の家族。人間一人の存在感が大きい。成瀬 康貴さん(おおい町Uターン)



おおい町の若狭本郷駅からほど近い海沿いに、複合レジャー空間“うみんぴあ大飯”がある。アミューズメント、ホテル、グルメ、ショッピング、ヒーリングなど、さまざまな施設の中で、ガラス張りの堂々たる建物が目に入る。2008年に完成した「福井県こども家族館」だ。京都から福井にUターンした成瀬さんは、この「こども家族館」に児童厚生員として勤務している。

事務所で挨拶をするとすぐに館内を案内してくれた。2階から4階の吹き抜けにそびえる巨大帆船遊具は圧巻の一言、海をモチーフにしたボールプールは、日本最大級なのだとか。子供のみならず家族みんなで楽しめる人々の交流の場となっている。そして、とても丁寧な対応に成瀬さんの人柄を垣

間見ることができた。

成瀬さんは現在、30代前半、大学卒業後、県外で勤務したが、両親のこともあり、いずれは福井に戻りたいと考えていた。「大学生活を含めると京都に計10年間住んでいました。福祉系の大学に行き、介護・ヘルパーの相談員として高齢者介護施設に勤めていました。」

京都にいた頃に、県のUターンセンターに登録して、福井の就職情報を得ていた。地元のおおい町に「こども家族館」ができることになり、職員を募集しているとのことで、この機会に地元に戻りたいという思いが一層強くなった。「もともと地元に貢献したいという思いがあって、どういった形で貢献できるかと考えていました。今のような家族とかお子さんとかに関われる仕事など、何ができるのかなと色々考えました。」

今は「ものづくり工房」という分野を担当しているが、「単にモノを作るだけでなく、思い出を作ってほしい。そのお手伝いがしたい」、「自分の子供の頃の思い出はいっぱいありますが、やっぱりいいもの。そんな子供達の思い出作りのお手伝いができるなんてすごいこと」、そして、「家族みんなに居心地のいい場所が提供できれば。ここがあってよ

かったと言ってもらえるようにしていきたい」と、子供、そして今の仕事に対する熱い思いが伝わってくる。

新婚の成瀬さん、奥様は京都の出身で、「妻にはおおい町での生活を楽しんでほしい。そして、この町を好きになってほしい。きっと、そうなってくれると思う」そして、今の生活については、「県外で生活をしてきたから、余計に福井の良さがわかるのかもしれませんが。ずっと、地元にいたら、わからなかったかもしれませんね」と話す。

「友人が多く、仲がいいのは最高です。友人の結婚式でも、みんなでひと味違うサプライズをしようと余興の練習に力が入りました。」友人の家族も自分の家族だと感じると話すなど、とても微笑ましい一面を見せてくれた。

福井の生活は、「抽象的ですが居心地がいい。食べ物はおいしいし、環境が良い」、「都会は人と人の間の距離を感じるが、福井だとそれが近い。特におおい町では近く感じる」と、人の付き合いの深さ、人間一人ひとりの存在感の大きさを強く感じている。最後に、これからの目標について伺うと、「こども家族館というからには、子供はもちろんお父さんももっと気軽に来られるようにこれからも努力していきたい」そして、成瀬さん自身も子供が出来たらこども家族館に連れて来ることが今から楽しみなのだそう。

ご案内：福井県こども家族館（うみんぴあ大飯内）<http://www.kodomokazokukan.jp>

【“ふくい”での暮らし 定住についてのお問い合わせ先】

ふるさと福井移住定住促進機構（福井 U ターンセンター）

〒910-0858 福井市手寄 1 丁目 4-1 AOSSA 7 階 TEL:0776-43-6295